

## 「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による  
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

### 第53回:NATOビリュニス首脳会合;前進と停滞と

2023年7月27日配信

#### 【ポイント】

- NATOは7月11日～12日、リトアニアの首都ビリュニスで首脳会合を実施。昨年のポーランドに引き続き、ロシアに相対するNATO東正面で開催したことは意図的かつ象徴的。
- 前進;首脳会合の直前に種々調整が行われ、トルコがスウェーデンのNATO加盟への反対を取り下げた結果、同国のNATO加盟が実現したことが大きな成果の一つ。  
これで、バルト海はNATO加盟国で囲まれることになり、リトアニアとポーランドに挟まれたロシアの飛び地であるカリーニングラードの孤立は深まった。
- 停滞;一方、最大の焦点だったウクライナのNATO加盟問題には、何らの進展も無かった。
- ストルテンベルグ現事務総長(元ノルウェー首相)の任期延長決定。同事務局長はロシアのクリミア半島侵攻後の2014年10月に就任。ロシアのウクライナ侵攻後の22年3月に、3度目の任期延長を決めていた。NATO事務局は同氏の4度目の任期延長(1年間)で加盟国が合意したと公表。  
任期は、24年10月1日まで。

#### 【本文】

- 停滞;ウクライナのNATO加盟;支援については一定の前進あるも加盟については後退さえ  
・最大の注目点は、ウクライナ支援継続について強い団結を示すことと、同国のNATO加盟について何をどこまで示すか。支援継続については、ある程度力強い言及があった。
  - \* 一方、加盟問題については、NATOは2008年のブカレスト首脳会議で、既にウクライナの「将来の加盟」を約束し、その加盟申請を支持した(当時米国ブッシュ大統領はウクライナとグルジアのNATO加盟を強力に支持)が、当時から欧州主要国は慎重姿勢。加盟の方法や時期については言及されなかった。これが、ロシアの侵攻を招いたという意見がある。
  - \* 一方、この背景には、NATOが極めて強力な共同防衛を規定した同盟条約である中で、ウクライナのように、国内に親口派を抱え、ロシアと国境問題を持つ国の加盟は、NATOとロシアの直接対峙に容易に繋がり得ることから、NATO主要国が慎重であることがあったが、この状況は現在も変わっていない。

- \* 結局、今次首脳会合では、現存の「ウクライナ・NATO委員会」を「ウクライナ・NATO理事会」に格上げし、ウクライナがNATO同盟国と同等の立場で、会議を招集できるようにすること、G7の強力な支援継続、米国がイスラエルに行っている軍事支援をウクライナにも与えることなどのコミットメントの強化が示されたが、加盟問題自体には全く前進が無かった（共同コミュニケは、加盟国が持つウクライナのNATO加盟への拒否権に明確に言及する形になった。）（「我々は、加盟国が合意し、諸条件が満たされた際に、ウクライナに加盟招請を行う」）（パラ11末尾）
- \* 今後のウクライナ戦争の行方次第だが、来年の首脳会談は米国で実施する予定であり、ここで加盟問題に何らかの前進があるかどうか注目される。

■ 前進；スウェーデン加盟決定＋この会合には、昨年に引き続きAP4（アジア太平洋におけるNATOのパートナー国、日韓豪NZの4カ国）の一員として、岸田総理が出席し、協力項目を一層具体化した新たな日・NATO国別パートナーシップ協力計画を採択した。これは、2014年5月6日の前回国別パートナーシップ協力計画に基づく日・NATO協力をより一層進展させることを目的。

・ 具体的協力項目として明記されたのは、以下の諸分野

- \* サイバー防衛      \* 海洋安全保障      \* 人道支援・災害救援      \* 防衛科学技術
- \* 軍縮（特に小型武器及び軽兵器関連）、軍備管理、大量破壊兵器とその運搬手段の不拡散
- \* 女性、平和及び安全保障      \* パブリック・ディプロマシー活動
- \* 日本とNATOの共通関心分野における防衛及び安全保障に関するその他の協力

・ 停滞；NATO日本事務所開設は先延ばし

- \* NATO側からの提案に基づくサイバー、宇宙、偽情報などに関する連携強化のためのNATO日本事務所の開設については、（対中考慮に加え）NATOは北大西洋同盟である、との原則論を理由としたフランスの反対が変わらず、今回は実現せず。検討は継続されるが、実現は秋以降に先延ばし。

■ 共同コミュニケには、中国に対する具体的言及が多く、NATO側の関心の高まりを示す。

・ 全90パラのコミュニケの内、3パラ（対口関係言及は6パラ）で中国に言及。

- \* パラ23では、中国の意欲的かつ威圧的政策がNATOの利益、安全と価値を脅かしていると明言。中国の悪意あるハイブリッドやサイバー活動や対立的レトリックと偽情報流布は同盟国と同盟の安全保障を標的としている、経済的梃子を活用し、戦略的依存と影響力伸長を目指しており、宇宙、サイバー空間、海洋空間でルールに基づく国際秩序を覆そうとしている、と言及。
- \* パラ24では、中国との建設的関与にオープンとする一方で、そのためには相互的透明性向上が必要と指摘。NATOは中国が大西洋・欧州に齎している体制的挑戦に対処しており、海洋の自由を含むルールに基づく国際秩序と我々の共通の価値のために立ち上がる、と表明。
- \* パラ25では、中国とロシアの戦略的パートナーシップの深化とルールに基づく国際秩序に対する共同した挑戦を指摘し、責任ある安保理常任理事国として、ロシアのウクライナ侵攻を非難し、ロシアの間違った言質の流布に加担せず、ロシアへの致死性の支援を行わないように中国に要請。

りそな総合研究所 顧問 石井正文